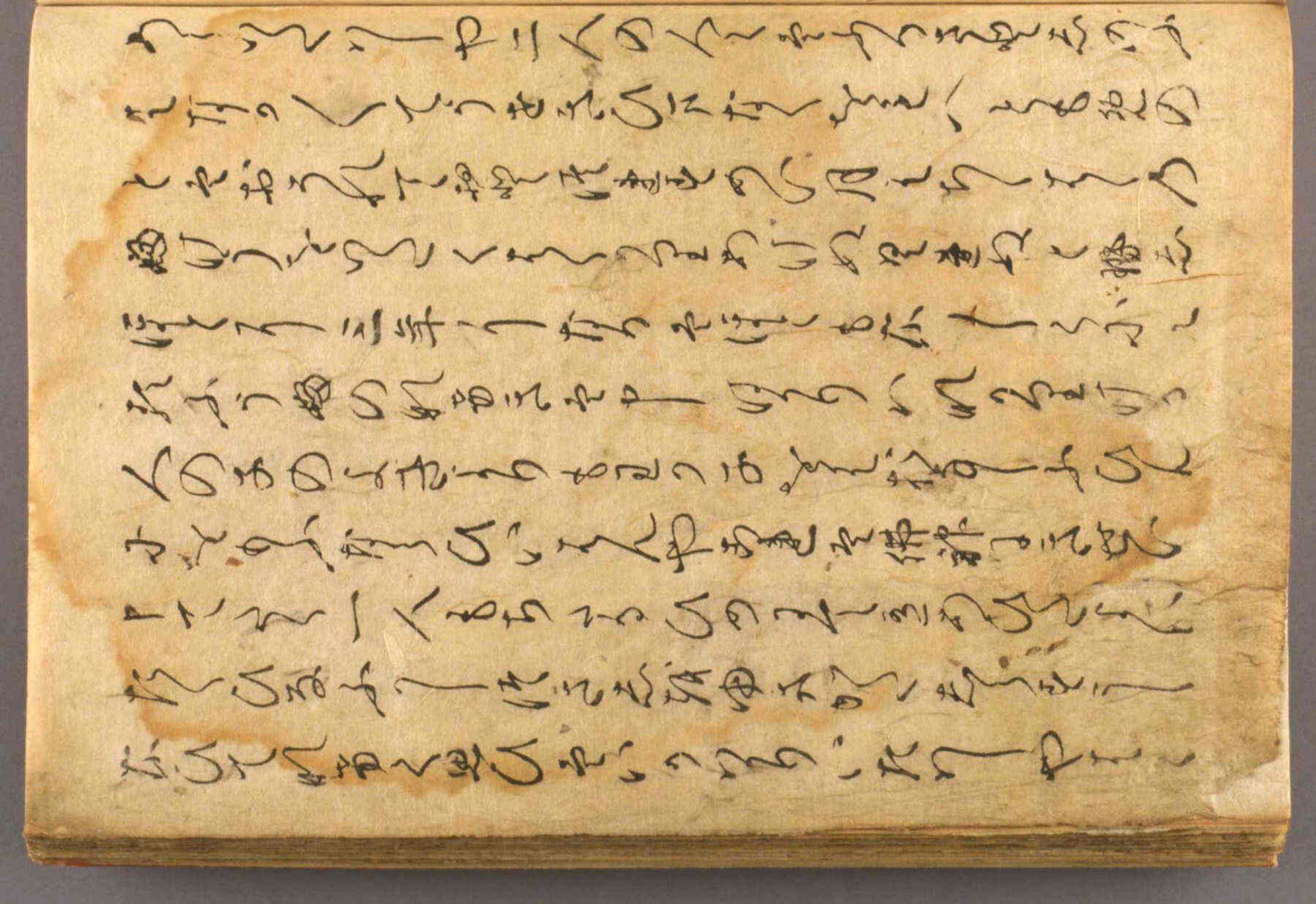
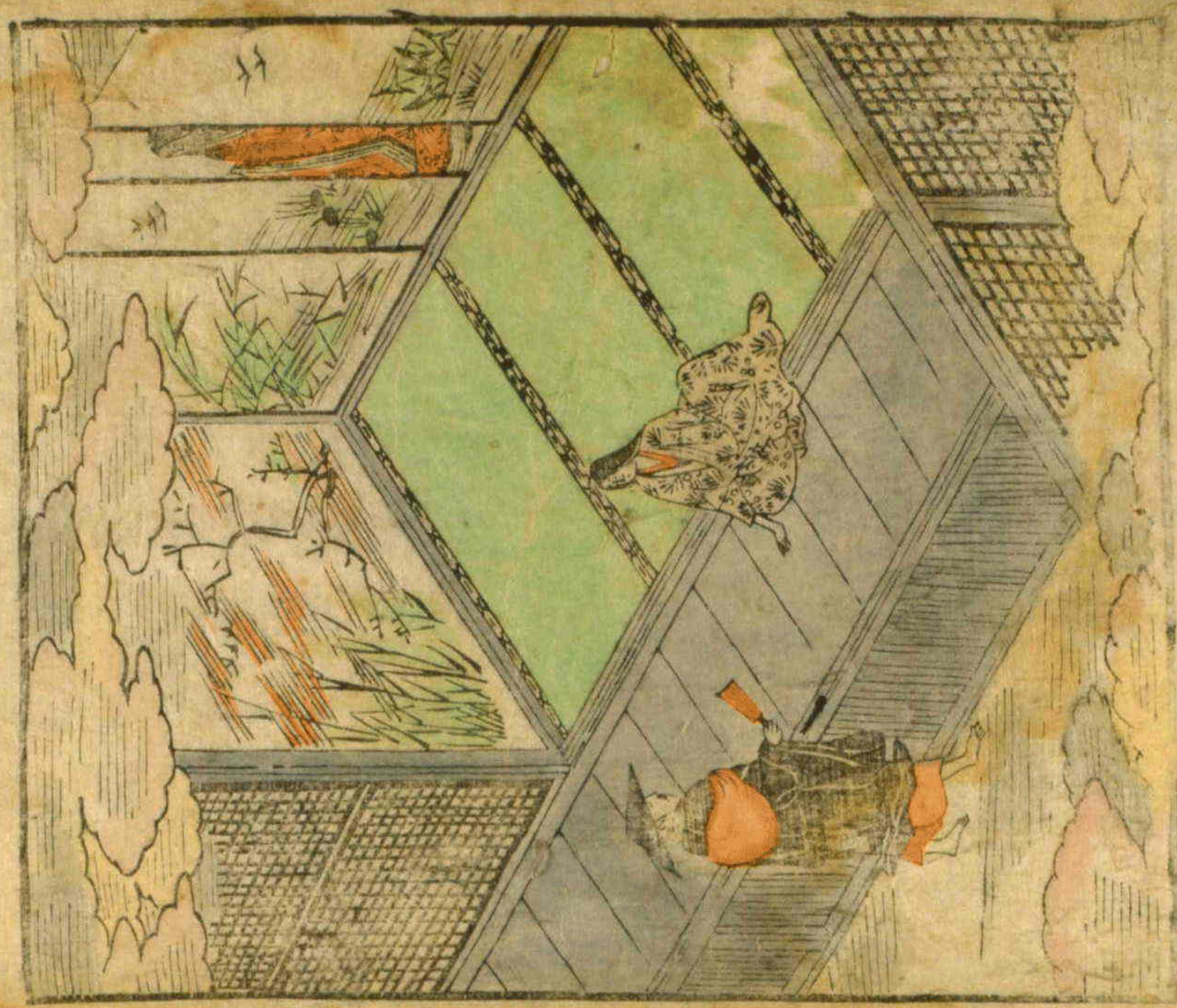


とうとうみな逃げてしまった。

さあ、ようやくのことで難をのがれたこの三人は、
ぶるぶるふるえながらもとのすがたにもどって、
ようやくのことで、ほっとひと息ついたのだ。
そこへ、ちょうどよいぐあいに、
ひとりの男がやってきたのを見つけて、
三人は、ていねいにたずねてみた。
すると、その男は、
「ここからまっすぐ行くと、
ずいぶんりっぱな寺がある。
そこへ行って、
ひとやすみするがよい。
そこの和尚さまは、
たいへんにやさしいかただから、
きっとよくもてなしてくれるだろう。」
と、教えてくれたのだ。
三人は、
この男にお礼をいって、
その寺へ向かって、
いそいでいそぎ足で、
歩いていったのだ。

あり少し公月そこのあしちりく酒座ありしり
今のうたをきあしのし詞とやらんむひうらさ
を家人残せしてしゆきやうしやをいつ見の人
そとくをすれをしゆきやうしや取しくあさ
まし家男をしよにありりかはふうさとを中へ
きそめらねせけくみくもしなふのせん芸を
漢の國りんさ紀のもの〻てゆのとを名月も
りんさきの物ときあしのしふきくれのをもな
ほしくしてしやうしが不大絶に昭重ひ戸より
もこゆへを年にもたらぬしゆきやうしやなり
なふしゆきやうしやいせんのあらましようさ



は山人の家てきゝことくなれは道おりくゝとや
佛もなくしてこなたへほ出かへるそたふ酒を
添りそえ武中さのゝとき名月さたりひふたも
と就あつりくさ氣く武士けく中さたりき
ところまわりて花やいまへいやうこへの
おひわけとやて山花を手入まわりたりあとや
なりをもゆらいのはりたりて家のきや一夜を
ろへそをあしも山さ庵といふうきかふ上らう
うらまてあしまをしけんしろまでかつてかさ
あたりのれは流りへ西へ三ちのはそあまやは
ろたりそこへ下瀬ちりの海へてそなふへゆり

国立国会図書館